

食品照射専門部会(第2回)
資料第6号

食料生産量とその中に占める 照射食品量について

平成18年1月25日

1. 食料生産量とその中に占める照射食品量について

2003年4月現在、食品照射は31ヶ国及び台湾で40品目が実用化されている。その処理量について、各種文献データを整理すると以下のとおり。

国名	推定年間処理量	備考
中国	140,000トン	スパイス、にんにく等
米国	89,000トン	スパイス、牛挽肉&食鳥肉、果実等
東南アジア	26,000トン	スパイス、発酵ソーセージ等
欧州	20,000トン	スパイス、カエル脚、鳥肉等
日本	8,000トン	ばれいしよ
合計	約30万トン	

世界の食料生産量は、穀物だけでも約20億トン。食品照射は、殺菌や殺虫などが必要な場合、他方式との比較考量の上で採用される一つの方法であり、食料全体に占める割合は極めて小さい。

2. スパイスの照射処理量

スパイスの照射処理量は2000年で約9万トン。国連食糧農業機関統計（FAOSTAT）によると世界のスパイス消費量は約600万トン（その約半分はインド）。注

注：双方のデータで各国のスパイスの定義に相違がある可能性がある。

米国の照射処理量は、2000年で約4.5万トンだが、最新情報では、スパイス消費量約50万トンに対し、その1/3がエチレンオキサイド、蒸気あるいは放射線のいずれかで殺菌処理されており、放射線照射分は約7万8千トンあるといわれている。

